

鳥取県岩美郡岩美町

浦富6号墳

2001. 3

岩美町教育委員会

# 序 文

本町は鳥取県の最東端に位置し、山陰海岸国立公園・名勝天然記念物に指定された浦富海岸、国指定天然記念物のカキツバタ群落など、豊かな自然に恵まれています。文化財も多く、縄文時代から中近世に至る間の様々な遺跡・遺物が町内各地に出土していますが、なかでも古墳は現在のところ約450基が見つかっています。

このようすばらしい風景や環境を保存し、歴史・自然体験の場として活用していくことが、時代を担う青少年の育成にとっても重要なことです。

このたび、浦富真砂土採取事業に伴い古墳1基をやむをえずとりこわさなければならなくなり、関係者が協議を行った結果、発掘調査を実施し記録保存を行うことに決定しました。

発掘調査が完了し、ここに一書をもって成果をご報告申し上げます。みなさまのご高覧に供し、ご批判・ご鞭撻を賜りたいと存じます。最後に、現場で調査に携わっていただいた皆様、ご協力、ご指導いただいた多くの方々や関係機関に心より深く感謝申し上げます。

平成13年3月

岩美町教育委員会

教育長 大黒 啓之

## 例　　言

1. 本報告書は、浦富真砂土採取事業に係る発掘調査として実施した浦富6号墳の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、岩美町教育委員会が主体となり平成12年10月～平成13年3月に実施した。
3. 発掘調査を実施した遺跡の所在地は、岩美町大字浦富字内池田である。
4. 発掘調査によって作成された記録類は、岩美町教育委員会に保管されている。
5. 本報告書の執筆・編集は、中島伸二、水石明夫が行った。
6. 本報告書に用いた方位は国家座標第V系の北を示し、レベルは海拔標高である。
7. 発掘調査事業にあたっては、多くの方々から指導、助言並びに協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センター、株式会社 田中組

## 本　文　目　次

第1章 発掘調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の概要	4
第4章 ま　と　め	9

## 挿　図　目　次

第1図 岩美町遺跡分布図	3
第2図 浦富6号墳調査位置図	4
第3図 浦富6号墳地形測量図	5
第4図 浦富6号墳遺構配置図	6
第5図 浦富6号墳土層断面図	7
第6図 浦富6号墳第1・第2主体部平面断面図	9

## 図　版　目　次

図版1 浦富6号墳発掘調査地全景

図版3 周溝検出状況

図版2 第1主体部・第2主体部・石組検出状況

## 第1章 発掘調査の経緯

浦富6号墳は、岩美町大字浦富字内池田に所在し、岩美町立保健センター裏の山林の東西方向に延びた丘陵上（標高約30m）に立地している。

今回の発掘調査は、浦富真砂土採取事業に伴って実施したものである。

平成11年8月、株式会社田中組から浦富真砂土採取事業計画に伴い、計画予定区域内における埋蔵文化財の有無について照会があった。本町教育委員会は、現地を踏査した結果、埋蔵文化財が所在する可能性のある箇所であることを確認し、工事を行う場合は、埋蔵文化財の保護について協議するよう回答した。

その後、平成12年2月、株式会社田中組から当開発事業の申請があり、本町を経由して県へ報告した後、同年3月、県より開発協議結果が本町に通知された。その内容については、事業区域内に埋蔵文化財が所在する可能性があるので本町教育委員会と協議をするようにとのことであった。これを受け、当開発事業の窓口となっている本町企画観光課、株式会社田中組、本町教育委員会で工事予定地内における埋蔵文化財の保護と工事との調整を図るべく協議を行った。その結果、遺跡の存在の有無、範囲確認、性格の把握を目的とした試掘調査を実施することになった。

試掘調査により、古墳の主体部および周溝が確認され、その後、事業計画や遺跡の取扱について各関係機関との協議がなされたが、発掘調査を実施し遺跡の記録保存を行うこととなった。発掘調査は平成12年10月に着手し平成13年3月に完了した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

岩美町は、鳥取県の最も東寄りに位置する。北は日本海に面し、三方を山地に囲まれる。南側は国府町、西側は福部村に隣接する。東側は、兵庫県美方郡浜坂町および温泉町と県境を隔てて接する。町内には、標高1000mの河合谷高原より源を発する蒲生川が北西に貫流し、その南西側には、同じ山塊より発した小田川が北流している。その流れは途中で合流し、日本海へ注ぐ。二つの河川の周辺には、肥沃な谷平野、沖積平野が形成されている。

岩美町の海岸線は変化に富み、山陰海岸国立公園に指定されている。羽尾岬、陸上岬が海に突き出し、その間に美しい弧を描いた砂浜が形成されている。網代、田後港という良港にも恵まれ、漁業の町としても良く知られているところである。

岩美町の歴史の幕開けは、縄文時代より始まる。従来、鳥越の沢尻（50）で条痕地、無文地を呈した十数片の縄文土器が採取されたほか、岩井廃寺跡（47）より縄文晩期の深鉢が、そして山ノ神

5号墳（55）の発掘調査時に、縄文前期の土器片や石鐵・石斧の出土が知られていた程度であった。

平成11・12年度に調査した新井三鷲谷遺跡（67）に於いて、縄文時代後期前半の土器片を伴った長径1.43m、短径1.34m、深さ0.4mを測る擗り鉢状のやや歪な円形の土坑を検出しており、岩美町内では初めての遺構検出例となった。土器片の他、多数の安山岩系の石材・剥片、そして黒曜石の剥片も含まれ、この場所で石器を製作していたであろう事が推察された。また、遺物包含層より晩期の突帯文土器を検出している。このように確実に縄文時代の遺跡は増加している。

弥生時代に入ると、蒲生川下流域の沖積平野にいくつかの遺跡が見られる。集落跡として昭和40年代の河川改修の際、川底より弥生中期～後期の壺・甕・器台などの土器片の他、太型蛤刃石斧・石包丁・砥石等の石製品を出土した新井遺跡（70）が知られる。

また、新井遺跡に隣接した山腹に所在する上屋敷遺跡（69）からは、流水文銅鐸が出土している。この銅鐸は、近年調査が行われた島根県加茂岩倉遺跡出土の31・32・34号鐸と、また以前より知られていた神戸市桜ヶ丘3号銅鐸とともに同じ鋳型で造られた兄弟鐸であることが判明し話題となっている。

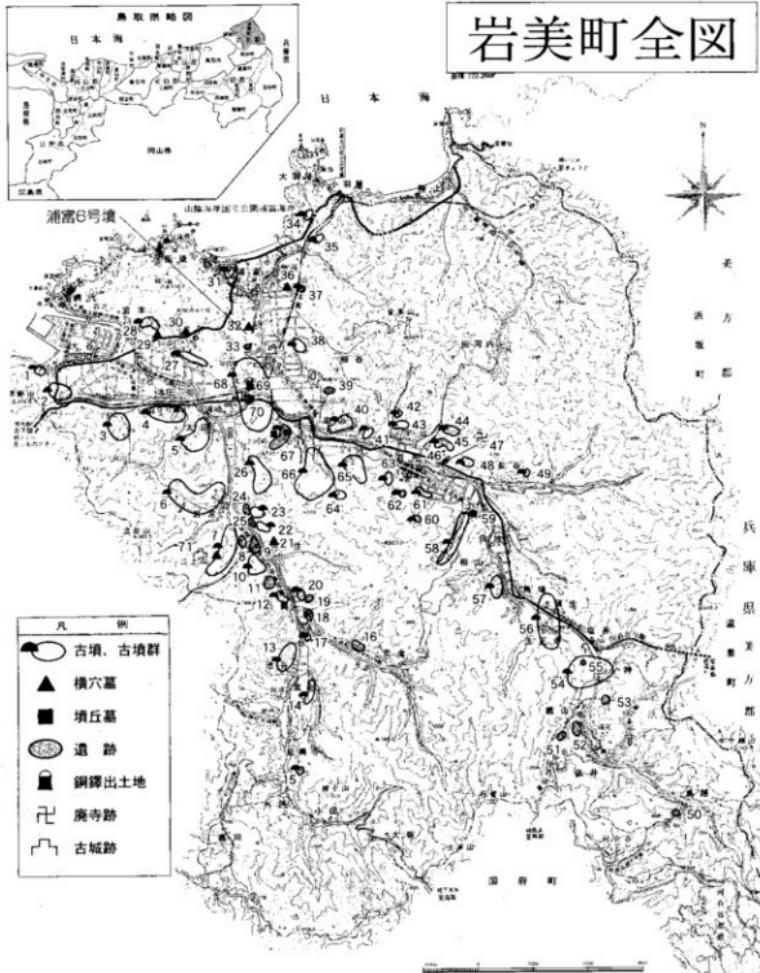
上屋敷遺跡から南東2kmにある新井三鷲谷遺跡では、後期初頭に造営されたと考えられる貼石を持つ墳丘墓（新井三鷲谷1号墳丘墓）を1基、また、時期を確定しがたいが、ほぼ同時代に造られたであろう方形の墳丘墓（新井三鷲谷2号墳丘墓）を1基確認している。新井三鷲谷1号墳丘墓は、この時期の墳墓の中では、全国的にも最大級のもので、南北約26.5m、東西約18m、高さ最大約3mを測る。墳丘には拳大から人頭大よりやや小振りの石を貼り付け、一部石列が認められた。この発見により、前述した新井遺跡や上屋敷遺跡との関連性が窺われる。

新井三鷲谷遺跡の西方に位置する丘陵屋根上に存在した新井32号墳下（68、消滅）からは、弥生時代中期と推定される木棺墓2基を検出している。これに隣接した新井51号墳（68、消滅）からは、弥生時代後期の甕・器台の口縁部を検出し、墳丘墓の存在が想定される。

その他、小田川下流域の上太夫谷遺跡（8）からは、弥生時代後期と推測される竪穴住居跡・木棺墓群が検出されている。

古墳時代になると、弥生時代に展開した沖積平野の生産基盤に加え、山間部の開拓も進み、町内各地に古墳の造営がみられる。現在、約450墓の古墳と約20基の横穴墓が町内に確認されている。その中でも、巨大な石室を主体とし家形石棺を有する古墳が確認されている高野坂古墳群、小畠古墳群や砂丘地に造営された富安古墳群など特色のあるものが多い。

古墳時代終末期より奈良時代に入っても依然として古墳の造営は続くが、その中には有力な氏族集団が建立したと思われる岩井廃寺がその存在を知られている。岩井廃寺は、白鳳時代後期の法起寺式の伽藍配置をとったものと考えられている。また、7世紀末には銅が産出されていた小田川上流の荒金集落付近に位置する広庭遺跡では、発掘調査により規格性をもたる掘立柱建物群が検出されている。南北朝に入ると、山名氏が因幡支配の戦略的拠点とするため二上山城を築き、戦国期まで機能を果たしていた。この時期には、町内の至る所に城砦跡が築かれている。



1 弥長古墳	16 広庭遺跡	31 潟室古墳群	46 岩井廬寺下層遺跡	61 岩井荒神下古墳群
2 小浦古墳群	17 宮内古墳群	32 岩井御院裏横穴墓群	47 岩井廬寺跡	62 岩井南塚谷古墳群
3 大浦古墳群	18 院内古墳群	33 岩井角山遺跡	48 岩井大野古墳群	63 岩井奥山古墳群
4 木中古墳群	19 院内古墳群	34 熊井六墳群	49 長谷寺塚古墳群	64 志志美の谷古墳群
5 太田古墳群	20 萩郷耕ノ谷古墳	35 吹谷橋若古墳群	50 鳥越沢尻遺跡	65 塚上古墳群
6 萩郷寺谷古墳群	21 植ヶ谷横穴墓	36 吹谷横穴墓群	51 須山女郎谷遺跡	66 志志古墳群
7 穂野寺谷古墳群	22 岩常成山古墳群	37 吹谷下竹領古墳	52 須山真教寺遺跡	67 新井三鶴谷遺跡
8 上太夫谷遺跡	23 岩常猪ノ谷古墳群	38 猛山下猪山古墳群	53 洗井廉助谷遺跡	68 新井古墳群
9 上ミユエ遺跡	24 宮の前遺跡	39 猛山狹所遺跡	54 山ノ神古墳群	69 上屋敷遺跡
10 高住古墳群	25 福石遺跡	40 猛山上ノ山古墳群	55 山ノ神遺跡	70 新井遺跡
11 東森谷遺跡	26 横座古墳群	41 志志寺山古墳群	56 蒲生古墳群	71 二上山城跡
12 長郷古墳群	27 溝當日ヶ崎古墳群	42 宇治宮下尾敷古墳群	57 塚場古墳群	
13 他谷古墳群	28 岩本古墳群	43 宇治宮下尾敷古墳群	58 真名古墳群	
14 池谷筋山古墳群	29 岩本横穴墓群	44 岩井宮下尾敷古墳群	59 真名遺跡	
15 鶴舞寺城山古墳	30 岩谷古墳群	45 岩井宮の谷古墳群	60 岩井太郎右エ門谷古墳群	

第1図 岩美町遺跡分布図

### 第3章 調査の概要

浦富6号墳は、開発事業に伴い埋蔵文化財の保護と工事との調整を図るため、平成12年8月に実施した試掘調査において、工事予定地の丘陵付け根部分の標高約30mに設置した第1トレンチ（第3図参照）により検出された。

今回の調査では、以下の調査方針をたて実施することとした。

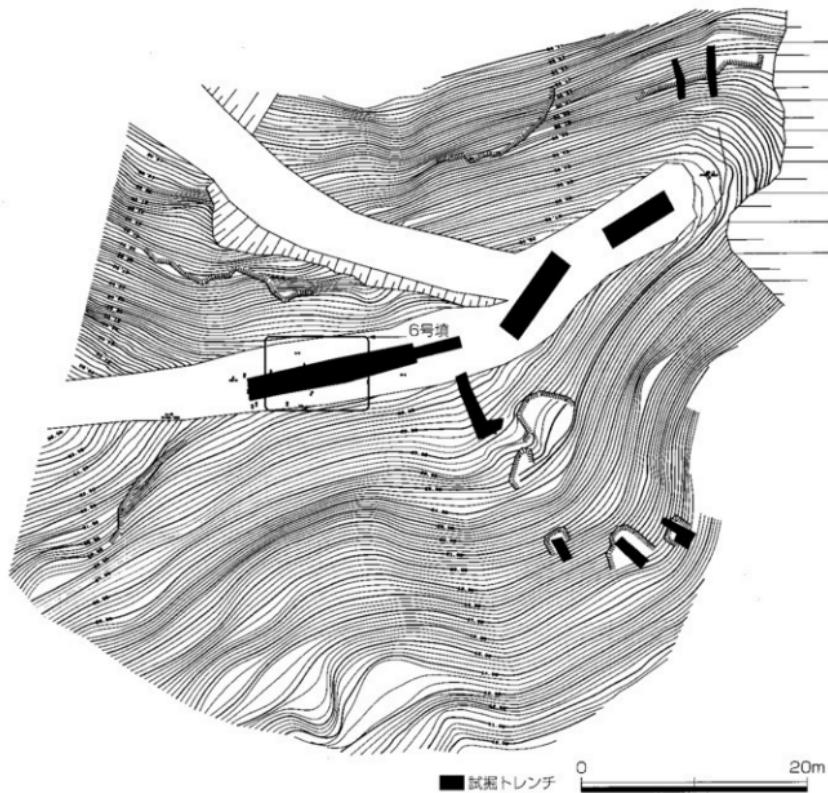
浦富6号墳は、試掘調査及び地形観察によって、東西約8mの規模の古墳が推測された。また、南北についてはテラスの存在が予測される地形を確認した。このため、発掘調査は古墳築造に関する全面積を対象とし、古墳築造に伴う地山整形は全面にわたって、墳丘盛土をすべて除去し露出を行った。また、古墳築造に関する他の遺構の存在を考慮して最大限広範囲を調査する。

調査では、当該古墳が、地山整形によって作られた古墳であることが判明した。埋葬施設は2基確認され、西側及び東側にそれぞれ周溝を確認した。埋葬施設からは、遺物が検出されなかつたため古墳の明確な築造時期は判明しないが、築造方法からして古墳時代前期～中期に築造されたものと考えられる。

また、当初予想されたテラス面は、検出されなかった。おおむね以上の様な調査を行ったが、以下、各遺構について説明を加えていく。

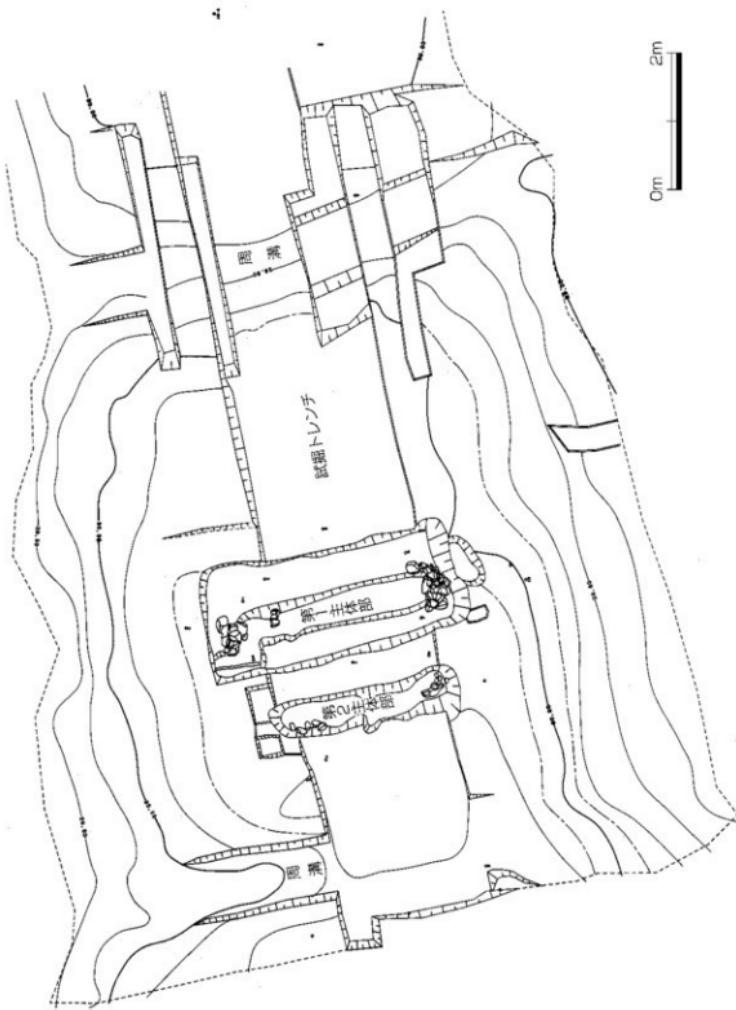


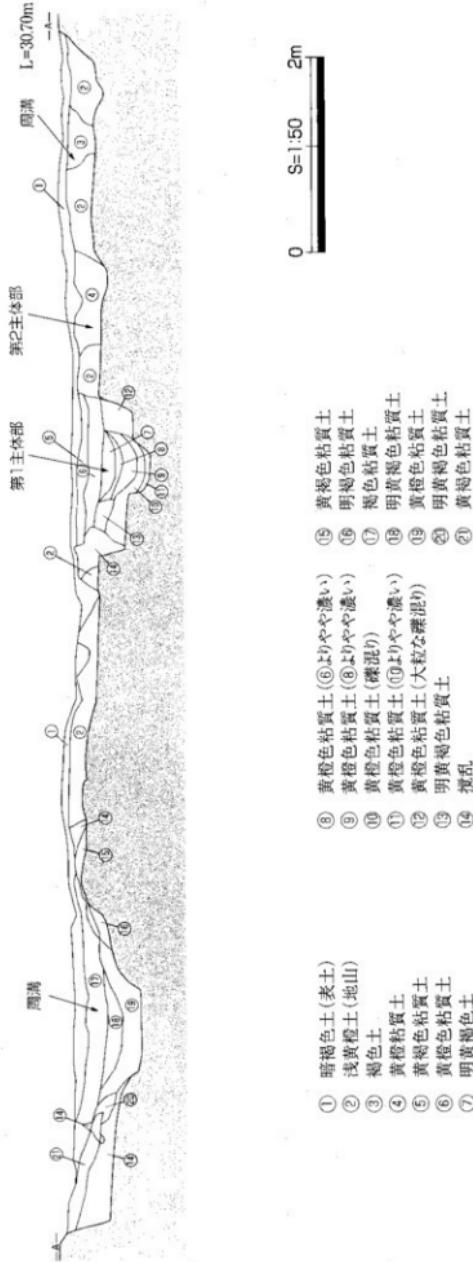
第2図 浦富6号墳調査位置図



第3図 浦富6号填地形測量図

第4図 浦富6号墳遺構配置図





第5図 浦富6号填土層断面図

## 墳丘及び周溝

墳丘は厚さ10cm前後の表土を除去した段階で検出した。周溝は地山を掘削して直線的に造られている。東側の溝は幅0.7m～1m、深さ60cm前後、西側の溝は幅0.7m～1.1m、深さ0.2m～0.4mを測り、断面形状は緩やかなU字を呈する。墳頂部は平坦である。墳丘斜面の遺存状況は、南北斜面とも流出が著しく原形をとどめていない。墳丘規模は、墳丘の長さ南北約6m、東西約8m内外と推測される。高さは0.8m前後、墳丘盛土の痕跡は認められず、墳丘の形成は、墳丘の流出や後世に何らかの理由による改変などで不明瞭な点も多いが、丘稜線を横断する溝を堀り、地山の整形を行うことによって成されたものと考えられる。墳形は溝の直線的な掘削状況から方形を意識しているものと考えられる。

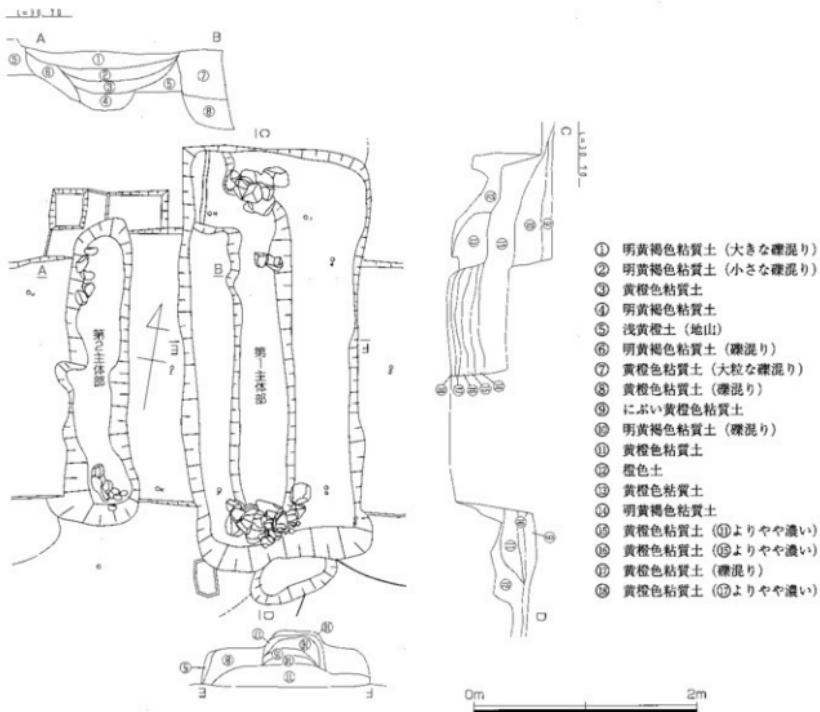
## 埋葬施設

埋葬施設（主体部）は、2つ確認され切り込みの状況（第6図参照）により、東側の規模の大きな方を第1主体部、西側を第2主体部とした。

第1主体部の平面は長方形を呈する。主軸方向はN-27°-Eにとり、尾根の主軸に対して直交している。2段墓壙で墓壙は地山から堀り込まれている。上面規模は長さ3.8m、幅1.6mで深さ0.25m、2段目の平地の幅北側0.35m、南側0.55mを測る。また2段目底面の長さ2.6m、北側の幅0.28m、南側の幅0.42mを測る。

墓壙の埋土状況から、この墓壙内には割竹棺あるいは舟型木棺が納められていたものと考えられる。また、棺を固定したのであろうか、棺を置いたと考えられる南北部分に石組を検出したが、石灰質で表面は黒く変色しており、特に南側の石組は棺を覆うように組み上げられていた。

第2主体部は第1主体部の西側に位置し、第1主体部をわずかに切り込んで作られている。主軸方向も第1主体部と同じでN-27°-Eにとり、尾根の主軸に対して直交している。土層観察により第1主体部と同様に2段墓壙であることが判明した。試掘調査のトレンチにより主体部が削平されたことから、規模の不明な箇所があるが、2段目底面は南北2m、東西0.3mの規模である。また、棺の痕跡を確認出来なかったが、第1主体部と同様に石組を検出したことから同じ埋葬方法をしているのではないかと考えられる。



第6図 浦富6号墳第1、2主体部平面断面図

## 第4章 まとめ

調査の結果、古墳時代前期～中期と考えられる古墳1基を検出したが、遺物の検出が無く時代の特定は推測の域である。埋葬施設を二つ有し、主体部築造の新旧関係を確認することが出来た。主体部は割竹棺あるいは舟型木棺が納められていたと推測される。浦富地区においては、海岸の砂丘地に造られた古墳時代後期の古墳が検出されているが、この調査で丘陵地に立地した古い時期の古墳を発見した。このことにより、丘陵地において浦富6号墳と同時期の古墳の分布が予想される。

# 報告書抄録

ふりがな	浦富6号墳							
書名	浦富6号墳							
副書名	浦富真砂土採取事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	岩美町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第23集							
編集者名	中島 伸二 水石 明夫							
編集機関	岩美町教育委員会							
所在地	鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地1							
発行年月日	西暦2001年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
浦富6号墳	鳥取県岩美郡岩美町 大字浦富字内池田	31302		35° 34' 34"	134° 20' 00"	2000.10.17 /	50m <sup>2</sup>	浦富真砂土 採取事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浦富6号墳	古墳	古墳時代	埋葬施設 周溝	出土せず	

図版 1

浦富 6 号墳調査地全景

(東より)



完掘状況

(東より)



完掘状況

(西より)



図版 2



第1主体部・第2主体部



第1主体部  
(石組状況)



第1主体部  
(石組状況)

図版 3

周溝東側



周溝東側



周溝西側



岩美町文化財調査報告書 第23集

浦富6号墳

平成13年3月22日 印刷

平成13年3月26日 発行

編集 岩美町教育委員会

発行 烏取県岩美郡岩美町大字浦富675番地1

TEL (0857) 73-1302

印刷 勝美印刷株式会社